

九戸村地域福祉計画

地 域 福 祉 懇 談 会

(結果の記録)

平成30年3月

九 戸 村

目次

九戸村地域福祉懇談会（第1回）	1
1班：地域福祉に関連した地域の現状と課題.....	1
2班：地域の課題と解決策.....	2
3班：元気なお年寄りを増やそう、いきがいにつなげよう.....	3
九戸村地域福祉懇談会（第2回）	7
1班：若い人から高齢者まで住みやすい地域づくり	7
2班：安定雇用とコミュニティの充実した地域づくり	8
3班：地域の課題と方向について.....	9
4班：少子高齢化社会対策に向けて明確化.....	10
5班：高齢者に優しい有償ボランティア	12
九戸村地域福祉懇談会（第3回）	16
1班：「公」と「民」の協力で『必要な介護が受けられる地域づくり』	16
2班：地域に目を向けて、私たちができること	17
3班：なんだかんだ言っても「つながり」が大事だと思う！	18
九戸村地域福祉懇談会（第4回）	22
1班：地域の課題と解決策.....	22
2班：人づくりが大切、人材・人財確保で安心安全な暮らしを！	23

九戸村地域福祉懇談会（第1回）

平成30年1月22日（月）13:30～15:30／戸田地区老人福祉センター

1班：地域福祉に関連した地域の現状と課題

●教育

- ・小学校、中学校のあり方。中一ギャップの解消に向けて、議論されている状況である。
- ・学校の統合どうなるか。跡地利用はどうするのか、考えていく必要がある。
- ・保護者を中心とした検討会が行われており、統合を機会として「小中一貫校」も議論されている。
- ・さらに、村立高校をつくり、一体的な教育を行ってはどうか。
- ・高校を運営するとしたら、財源をどのように確保していくのが課題になる。
- ・5つの小学校区で説明会を行い、町内1校に統合されることになっている。
- ・中心部の公共施設のあり方について、よく考える必要がある。
- ・図書館は必要とされている。

●高齢者（安否確認）

- ・ひとり暮らし高齢者の安否確認については、本当に必要な人は限られている。自分で買物ができているうちは、支援なしでも大丈夫だろう。
- ・安否確認用の「白電話」の設置について、ひとり暮らしの希望者全員に設置できないか。
- ・毎朝9時に電話して、安否を確認することができないか。
- ・ALSOKの利用者、村内に30数軒加入している。ただ、料金は安くないのでは。代わりに、防災無線など、既存の設備を利用できないのか。
- ・家庭訪問、認知症の方を訪ねる場合、被害妄想から実際と違うことを言うことがあるので、困ることがある。

●高齢者（交通）

- ・高齢者のみ世帯、単身世帯の場合、公共交通、とくに幹線道路から脇に入った場合、不便である。
- ・買物や通院の際の交通について、不便な人がこれから増えるのでは。
- ・年末年始の便が少なかった。今後、バスの本数、便数が減るようだ。
- ・自動車免許二種の資格を取得した。しかし、一人では業務にはならない。
- ・地域では、個人的に、乗せてもらっている例がある。
- ・公共交通のあり方を考える必要がある。

●子育て

- ・子ども、小学生向けの支援として、学童保育を社協で行っている。
- ・学童保育は、伊保内に1か所だが、各地区で対応できることが望ましい。
- ・6時まで、知己には6時過ぎまで預けたいという、共稼ぎの親のニーズがある。
- ・4時半までは学校の対応で、それ以降6時までには伊保内の学童保育で対応している。
- ・子育て環境に関しては、二戸市や八戸市よりも九戸の方が、費用がかからずに良いという声がある。

- ・住むところがあれば、九戸村で住みたいという子育て層のニーズがある。

●住宅問題

- ・村営の若者住宅は、平成 26 年に整備されたもので、10 年間の期限で利用できる。
- ・10 年で引っ越さなくてはならないのか。
- ・15 年まで延長できることになっている。
- ・村営集宅には、若者向けと一般向けがあり、とくに若い人の需要がある。・若者向けは質が高く、人気がある。
- ・民間では、空き家のリフォームを行って、販売している例がある。
- ・村内にはまだ住める状態の家があることか、村として活用する方法がないものか。

2 班：地域の課題と解決策

●地域の強み

- ・集まる場所が近い。
- ・年寄りが多く、仲良く散歩したりしている。
- ・色々な特技を持った高齢者がたくさんいること。
- ・高齢者による子ども達の見守り。
- ・大自然。
- ・明るく接してくれる。住民の助け合い。
- ・地域に人の顔が見えている。
- ・良くも悪くも、噂話が回り助けてくれる。
- ・地区で毎年、新年会、交流行事がある。
- ・野菜や漬物のお裾分け。
- ・野菜など分けてくれる事。
- ・道路の環境維持活動に皆が出て、草刈りなどを行う。
- ・自治会の活動が定期的に行われている。
- ・人の悪口を言わないこと。
- ・地域とのつながりが少なくない家がある。→助け合うために顔の見える関係、つながりを普段から！

●若い人を増やすためにも、子育て支援を！

- ・病気の子どもを預かって欲しい。
- ・保育園の充実、有資格者の確保。
- ・障がいをもつ子どもが多い。
- ・子どもが安心して集まれる場所。
- ・いつでも話ができる場所。

●引きこもり

- ・引きこもりが多いと思われる。
- ・「要保護児童→引きこもり」を追って把握する。福祉課の充実を図る。

●若い人

- ・若い人がいない。
- ・若い人の職場がない。
- ・高齢者（親）を持つ独身者の増加。
- ・独身者が多い。

●空き家対策

- ・空き家をどうしたらいいか分からない。
- ・空き小屋を知り合いに貸して失敗。 →空き家バンク

●地域での助け合い

- ・地域での助け合いには、日頃のコミュニケーションが必要！
- ・地域の中で、ボランティアだけでなく、助け合いの仕組みがあると良い。
- ・地区で決めるのではなく、村全体で規程があると良い（仕組み？ 有償ボランティア？）。

●相談先

- ・福祉に関して、相談窓口の整備が必要。
- ・介護などの相談先が明確でない。

●生活支援について

- ・高齢者の買い物が大変。
- ・自分が倒れたり、家を空けなくてはならなくなったり、誰が家のことをすすめるのか心配している。
- ・公共交通が不便である。
- ・ひとり暮らし高齢者が増えている。
- ・一人の場合、体力が落ちたり、認知症になったり、したときの見守り。
- ・買い物や通院などの際の足の確保。
- ・認知症の人が増えている。
- ・高齢者の生活支援、運転できなくなったら、入浴できてもお風呂を洗うのが大変等々。
- ・高齢者世帯が増えている。
- ・年金生活の中で、税金、自治会費、参加費などの支払いに頭が痛い。
- ・災害への対応。

3班：元気なお年寄りを増やそう、いきがいにつなげよう

●活動、いきがい（いいところ）

- ・有償ボランティアの育成。
- ・お年寄りの働く場の確保。
- ・イキイキサロンや味見会など、地区の方と取り組み。
- ・元気なお年寄りが多い（知識がある）。

- ・山菜や自然が多い。
- ・リーダーシップをとれる人がいる。
- ・カボチャまつりで、地区以外の方々が多くいらしてくれるのでいい。
- ・戸田では、月に一度、いろいろ集まるので楽しい。
- ・カボチャ祭、大変だけど、準備とかに集まると楽しい。
- ・戸田いきいきサロン等、予防活動を行っている。
- ・戸田はまとまっているし、となり近所ともうまくいっているから楽しい。
- ・地区の方に話しやすい。

●老後の心配

- ・介護が必要なときに介護する人がいない。
- ・認知症になったら心配。
- ・相談場所が分からない。
- ・自分の老後が心配。
- ・独り暮らしになった時、心配。
- ・認知症や障がいに対する知識が少ない。

●保険・お金・保障の不安

- ・介護保険料が高い。
- ・老後のお金がどの程度必要か情報が不足。
- ・情報が少ない。
- ・サギ被害に遭うことが心配。
- ・年金だけで暮らせるか。
- ・買い物にいきたい。

●通信手段

- ・災害時、村の有線が届かない場所がある。
- ・ネットの活用。

●通院・移動手段

- ・店が減って、買い物が不便。
- ・車が運転できなくなったとき、移動手段が不安。
- ・今は車があるから、買物には支障がないけれど、高齢なので、できなくなったら心配。
- ・病気になれば、食事が作れなくなる（栄養）。
- ・何をやるにも遠い、今は車があり免許があるので良いが・・・。
- ・夜間、体調悪いとき、救急車を呼ぶほどではない場合、受診が大変。
- ・体調が悪くなったときに、すぐに受診できる場所がない。
- ・病院への通院手段。

●活用できないか

- ・放置されている農地が多くなった。
- ・空き家が多くなっている。
- ・畑があるが管理ができていないため、雑草だらけになる。

●子どもは宝

- ・子どもが年々少なくなっている。
- ・子どもは宝なので、声をかけ、ママにも安心してもらえる地区でありたい。
- ・小学生、中学生の孫の通学路に街灯がなく危ない。

●地域の格差

- ・有線が聞こえないが、となりから聞いています。
- ・村の水道が欲しい（地下水を利用して、商売ができない）。

●除雪対策

- ・女性だけの家族、除雪も大変。
- ・集落から離れた家、訪ねたくても雪があると行けない。
- ・除雪車で家のところに来たら、少し片付けて欲しい。

●若者

- ・若者の働く場所がない。
- ・若い人の働くところが少ない。
- ・若い後継者はどうやって暮らしていけば良いか難しい。
- ・若者、「こんな村嫌だ！東京に行きたい！」。

●気軽なお茶飲み場

- ・気軽に集まる場所づくり。
- ・集会所に太陽光発電をつけてもらいたい。
- ・人が少なくなってきた、村のつながりがない。10年後はどうなるか。
- ・隣の人が分からない（つながりがない）。

地域福祉に貢献CT: 地域の現状と課題

教育

小・中学校
の学力向上
支援の充実

学習支援
プログラムの
充実

児童福祉
と連携した
支援

ICTの活用
による
学習支援

高齢者

認知症
の予防
支援

介護
サービスの
充実

地域
活動の
推進

ICTの活用
による
支援

子育て

子育て
支援
サービスの
充実

地域
活動の
推進

ICTの活用
による
支援

住居問題

高齢者
の住居
問題

子育て
世代の
住居問題

ICTの活用
による
支援

川戸 日影 橋島
白向

2018.1.22(A)
戸田地区 1班

H30.1.22 2班 地域の課題と 解決策

課題

- 高齢者の増加
- 認知症の増加
- 子育て世代の減少
- 地域活動の減少
- ICTの活用不足

解決策

- 高齢者の住居問題の解決
- 認知症の予防支援の充実
- 子育て世代の支援サービスの充実
- 地域活動の推進
- ICTの活用による支援の推進

川戸 日影 橋島
白向

元氣な高齢者が増える 11月10日(土)

課題

- 高齢者の増加
- 認知症の増加
- 子育て世代の減少
- 地域活動の減少
- ICTの活用不足

解決策

- 高齢者の住居問題の解決
- 認知症の予防支援の充実
- 子育て世代の支援サービスの充実
- 地域活動の推進
- ICTの活用による支援の推進

川戸 日影 橋島
白向

九戸村地域福祉懇談会（第2回）

平成30年1月24日（木）13:30～15:30／伊保内地区九戸山村開発センター

1班：若い人から高齢者まで住みやすい地域づくり

●地域でのサポート体制づくり

- ・地域の防犯サポートをしている（学童や老人に対して）。
- ・困りごとをわかった時に手を差し伸べる人が多い（助けようとする人）。
- ・地域行事などで人と触れ合う機会が多い。
- ・地域内での相談体制の構築が必要である。

●子どもを大切にすること

- ・子どもの休日の給食応援があるとよい。
- ・児童の見守り（特にカギっ子対策）が必要である。
- ・子育て中のお母さん方への援助が必要である。
- ・若い人たちの（子育て世代）サポートが必要である。
- ・少子化による地域行事等の縮小という現状がある。

●除雪

- ・スノーバスターをつくろう！
- ・歩道の雪かきボランティアがいるとよい。
- ・空き家の除雪（特に通学路）が必要である。
- ・除雪が大変そうな時の助け合いが必要である。
- ・男性の出番です。

●サロンの普及活動支援

- ・サロン活動は月1回位だが男性が少ないのが残念である。
- ・お茶っこ飲みを増やすことが必要である。
- ・サロンのできる集会施設が必要である。
- ・今、地域にサロン活動の場所が無い。
- ・シルバーリハビリ体操を利用しよう！！

●交通問題

- ・買い物難民への支援が必要である。
- ・移動手段が少ないことが課題である。
- ・交通手段の無い人への援助が必要である。
- ・バスが無くならないようにお願いします。

●高齢化問題

- ・一人暮らしの世帯が増加している。
- ・一人暮らしの老人の見守りが必要である
- ・災害時の連絡網の構築が必要である。

●その他

- ・耕作放棄地での共同作業をしても良い。
- ・犬や猫のフンを踏みつけてしまうことが課題である。

●今後望むこと

- ・村外からの定住促進企画が必要である。
- ・村外の人々が来たくくなる様な観光施設が必要である。
- ・高齢者と子どもと一緒にいれる公園が欲しい。
- ・道路や建物のバリアフリー化が必要である。

2班：安定雇用とコミュニティの充実した地域づくり

●住

- ・隣近所の付き合いが少なくなっていることが課題である。
- ・集まる事が少なくなった。
- ・部落の不幸の時には全員参加です。
- ・部落での会合も減ってきている。

●人

- ・子育て世代が減少している。
- ・子どもが少ないことが課題である。
- ・地域の人口が少ないことが課題である。
- ・一人暮らしが多くなってきているので、お互いの手助けが必要と思う。

●自然

- ・大雪の時の除雪が課題である。
- ・通学路の雪かきが必要である。
- ・冬は除雪が大変である。
- ・台風で川の水が増えることが課題である。

●居住

- ・二人暮らしで話しもなくなる現状がある。
- ・自宅周りの草取りや墓の草取り等に困っている。

●交通

- ・通学路の街灯が暗い。

- ・バスの回数が少ない。
- ・通院の事が心配である。今はよいけど今後は心配である。

●雇用

- ・働き口、職場が少ないことが課題である。
- ・子どもを増やす結婚支援が必要である。
- ・Iターン・Uターン支援が必要である。

●道路

- ・バス路線、回数などが減っている。
- ・街灯整備をしてほしい。
- ・除雪時の状況が悪い。
- ・通学路等の川岸整備が必要である。
- ・病院直通などの路線がほしい。

●コミュニティ

- ・サロンの開催施設の整備が必要である。
- ・店が減少している。
- ・住民の考え方。都会からの人や若い人たちの考え方が違う。
- ・仕事の時間帯が違っている。

●要望

- ・企業誘致と働き口の増加が必要である。
- ・Iターン・Uターン等の宣伝や支援が必要である。
- ・結婚・子育て等の支援が必要である。
- ・除雪路線（通学路等）の優先順位をつけることが必要である。
- ・サロンの開催が必要である。

3班：地域の課題と方向について

●高齢者

- ・見守り活動が必要である。
- ・行政で取組みを作ってほしい。
- ・高齢化が進んでいる。
- ・認知症が心配である。
- ・80歳以上の一人暮らし。
- ・一人世帯の高齢者が増えている。

●施設入所

- ・入所しやすくしてほしい。

●交通

- ・運転免許がない。
- ・通院が大変である。
- ・仕事ができなくなる。
- ・買い物が不便である。

●福祉・医療

- ・医療機関は1日かかり時間がかかる。
- ・福祉がどうなるか不安がある。
- ・情報公開や実態を知らせることが必要である。

●若い人

- ・若い人がいない。
- ・息子がいない。
- ・収入がないので不安がある。
- ・年金で暮らしていけない。

●仕事・雇用

- ・仕事がない。
- ・職場をつくる必要がある。
- ・収入を上げる方法が必要である。収入減という実態がある。
- ・老人になっても役割を果たしたい。

●健康

- ・健康問題。食事に気を付けるようにするべきである。
- ・野菜を食べて、塩分を控えるようにするべきである。

●コミュニケーション

- ・婦人会の会合が必要である。
- ・三世代家族。
- ・おじいさんと仲がよい。

●支援体制

- ・行政として考え方を示してほしい。
- ・地域でできるものをお願いする。

4班：少子高齢化社会対策に向けて明確化

●近所のつながり

- ・近所の人と顔みしりである。

- ・みなさんが顔みしりである。
- ・近所のお年寄りの人が色々な話しをしてくれる（知っている）。
- ・子ども達のあいさが元気でよい。
- ・おだやかで楽しいと思う。
- ・お年寄り（祖父母）と同居または近くにいるので子どもを見てもらえる。
- ・近所同士は助け合い。仲良くやっています。
- ・助け合いの精神が残っている。

●地域活動

- ・地域でのまとまりがよい。お祭りや盆踊りなど。
- ・地域での行事がある。
- ・地域の老人クラブが活発でよいと思う。
- ・町内会が存在している。
- ・下地区としては集まる場所が近い。

●一次産業の村がよい。

- ・おいしい野菜がたくさん取れる。
- ・農家、農地があり仕事に困りません。

●災害への対応

- ・近所の木が大木になって台風が来ると怖い。使わなくなった子やのトタンとか。
- ・川沿いの木の根が大きくなっていくので心配である（行政で見回りをしてほしい）。

●子育て支援

- ・病気の子どもをあずけることができない。
- ・子ども（保育）。軽い病気なら見てくれるところがあれば仕事を続けられる。
- ・障がいを持った子どもが多くなっている。
- ・障がいを持った子どもの相談窓口がわからない。
- ・保育園の環境改善が必要である。
- ・引きこもりの方を社会とつなげてほしい。

●交通手段

- ・通院の手段。交通の便が悪い。
- ・村の交通（バスやタクシーなど）が悪い。
- ・車がないと用事がたせない。病院、買い物、集まりなど。
- ・運転できなくなった時にどのようにしてよいのか。
- ・年配の人達の買い物が不便である。

●健康維持

- ・地区などでウォーキングコースなどの場所があってもよいと思う。

- ・運動不足が心配。以前、村で放送していたラジオ体操を流してほしい。

●ボランティアの充実

- ・少しでも長く自立していけるようにと思っておりますが、ボランティアの方は近くにいてほしい。
- ・一人暮らしの年寄りの冬の雪かきが大変である。
- ・高齢者世帯など困った時に来てくれるボランティアなどサービスがあればよい。

●少子高齢化

- ・高齢化で生活の不安はあります。経済的にどうか。
- ・病院がない。急な受け入れの体制や入院ベッドの不足が課題である。
- ・お年寄りを支える人口が少なくなっている。
- ・若い人が働く場所が少ない。
- ・少子高齢化が進んでいる。
- ・少子化が深刻である。
- ・介護保険サービスが少ない。
- ・認知症の人が集まる場所があればよい。

●専門窓口の明確化

- ・困ったらどこに相談したらよいかわからない。総合窓口がほしい。
- ・どこに相談してよいのかわかりづらい。
- ・資格者の確保が困難である。
- ・福祉にたずさわる方が不足している。

5班：高齢者に優しい有償ボランティア

●病院の問題

- ・高齢になってくれば介護に困る（老々介護）。
- ・介護施設が足りない（希望してもいっぱい待っている人がいる）。
- ・障がい者を抱えているので、介護タクシーがもっと簡単に利用できるようなればよい。
- ・緊急時の受入病院が遠いことが課題である。
- ・眼科があればよい。
- ・診療が、午後、夜間、日曜日でも診てもらえないので不安である。
- ・病院・診療所が少なくて困る。

●有償ボランティアの立ち上げ

- ・車もなくて、外に出るのに困る。
- ・隣近所に6人位いるけど、歩くのが大変ですので困っています。
- ・何があっても、足（車）がないから。
- ・一人暮らしの人に日用品を届けるサービス（有料でも）が必要である。重いものとか。
- ・有償ボランティアの立ち上げが必要である。

- ・書いたり、読んだりするのに困る（文書配布）。
- ・配食サービス（限られた人だけでなく）があればよい。見守りを含めた。
- ・雪が降ると片付けに男手がなくて困る。
- ・雪かきに困る。
- ・一人暮らしの高齢者や高齢な夫婦世帯を支えるボランティアが少ない。送迎や買い物等。
- ・高齢者夫婦や一人暮らしの高齢者は十分な食事が作れない人がある。配食サービスが必要ではないか。
- ・高齢者等の一人暮らしの見守りが必要である。
- ・障がい者・高齢者の見守りが必要である。

●有償ボランティア立ち上げのアイデア

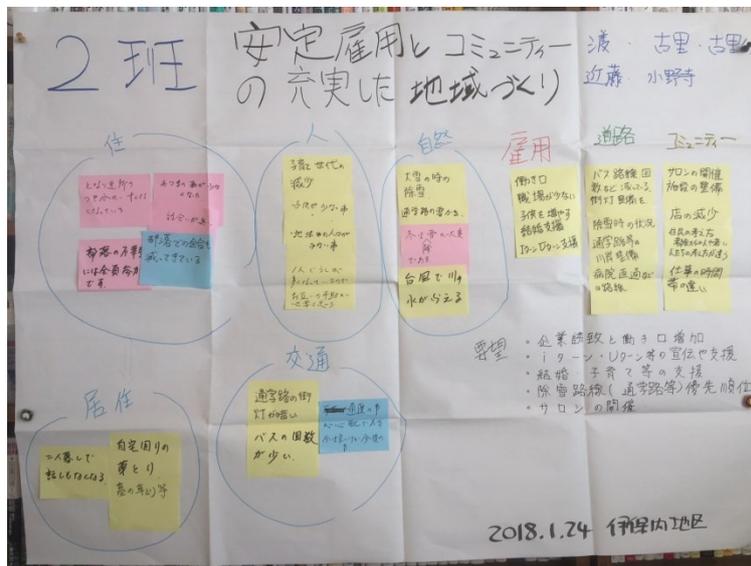
- ・ボランティア券発行する。
- ・ボランティア（提供者）と利用者の登録により支援する。
- ・行政区ごとに連絡し情報提供できる体制づくりがよいと思います。
- ・事業の立ち上げを行政で！

●地域サロンがほしい

- ・高齢者の集まるサロンが少ない。
- ・隣同士の付き合いが薄くなってきている（若い世代）。
- ・家から出ないでみんなで話しをしたいけど、どうにかできないですか。
- ・みんなで話す場があったら、お互い明るくなると思います。
- ・地域ごとのサロンを立ち上げて集まる場所を！
- ・地域毎のサロン等、住民の交流の場が少ない。
- ・子どもと三世代交流会の機会があれば参加したい。

●行政への要望

- ・雪の時、空き家の前とか学校の前のかたづけを行政で決めて実行してほしい。
- ・他町村では役場職員がスノーバスターを行っているが九戸では？
- ・相談窓口を明確にして欲しい。



九戸村地域福祉懇談会（第3回）

平成30年1月26日（金）13:30～15:30／江刺地区江刺家ふるさとセンター

1班：「公」と「民」の協力で『必要な介護が受けられる地域づくり』

●防災無線を聞こえるように

- ・防災無線が聞こえない。行政連絡が聞こえない。
- ・個別に聞こえる受信機が必要である。

●地域住民の支えない（できること、できないこと）

- ・ゴミ出しを手伝ってもいいけど。
- ・ゴミの分別が難しい。
- ・地域住民の支え合い人間関係の難しさもある。
- ・除雪が大変になった。
- ・地域のボランティア。誰かがやると思って誰もやらない（除雪、融雪剤をまく等）
- ・共同産業ができなくなって来ている（人が少なくなって）。色んな人が協力してやる必要がある。

●介護サービスの利用の保障

- ・介護保険を払っても介護サービスを受けられない。
- ・今、介護に携わる人がいるのか。介護人材が不足している。
- ・介護職の給与が十分か。
- ・介護施設は公や民か。

●雇用・若者対策

- ・仕事がない。
- ・若い人が増えればよい。

●地域住民の集いの場を！

- ・ふるさとセンターを無料開放して地区住民の集いの場にしてほしい。
- ・オドデ館を高齢者が集える場となってほしい。

●買い物難民

- ・買い物の便が悪い。
- ・（買い物）巡回バスの運行がほしい。
- ・移動販売もいいのではないかと。

●交通不便（公共交通のあり方）

- ・バスの便が悪い。停留所以外で止まってほしい。

●人口減への対応

- ・人口減である。住宅を集合・コンパクト化し、低コストや効率化もしてほしい。
- ・小学校が統合している。子どもの数が多い方がよい。

●その他

- ・社会構造の変化に対応できない。
- ・ルールを守る。

2班：地域に目を向けて、私たちができること

●通院支援

- ・病院がない（眼科、耳鼻科など）。
- ・近くに医療機関がほしい。

●買い物支援

- ・歩いていけるお店やスーパーがほしい。
- ・近くにお店がない。
- ・近くに商店があればよい。

●交通

- ・運転免許。
- ・車の運転が出来なくなった時不安である（買い物、通院）。
- ・交通の便。バスの本数が足りない。

●ボランティア（有償ボランティア）

- ・歩道の除雪が問題である。
- ・歩道の除雪をやる人がいない。
- ・除雪機械が必要である。

●配食サービス（メニューを選べる）

- ・食事をつくることが心配である（コンビニ弁当の配達）。

●宅配支援

- ・日用品や食材の宅配支援が必要である。

●介護予防を地域で

- ・介護サービスを受けやすいようにするべきだ。

●地域サロン

- ・ボランティア（声かけ、一緒に活動する人）が必要である。

- ・クラブ活動を家にこもらず何かをやる（老人クラブ、グランドゴルフ、パークゴルフ、カラオケ、工作に参加）。
- ・気軽に顔を合わせる場所になればよい。楽しい場所と思えるような場所がよい。
- ・楽しみを見つけて出かけられる。きっかけづくりを！
- ・近所の情報が入りにくくなった。道端会議がなくなった。
- ・楽しめる場所がほしい。

●高齢者

- ・一人暮らし世帯が増加している。
- ・認知症高齢者が増加している。
- ・空き家が増えた。
- ・高齢者アパートに住みたい。
- ・地域での見守りが必要である。
- ・高齢者向け住宅（バリアフリー・フリースペース付）の整備が必要である。

●少子化

- ・子どもが少ない。

3班：なんだかんだ言っても「つながり」が大事だと思う！

●災害

- ・災害時の地域ごとの助け合い行動の意識づくりが必要である。
- ・大きな災害がなくてよい。
- ・災害が少ない分、有事の際は慌てやすい。

●子ども

- ・子どもが集まって遊ぶところがない。
- ・地域の高齢者による子どもの見守りがある。

●除雪

- ・自分の周りの高齢者の家の前に、片付けをしている。
- ・除雪が大変である。
- ・高齢者の除雪の手伝い。

●つながり・助け合い

- ・昔は支え合い活動があった後は、「お疲れさん」のお茶っこ会があった。
- ・若いときは近所同士で助け合えたが、今はお互いに年をとってそれができなくなった。
- ・隣近所での協力やつながりが前より少ないと思う。
- ・「年寄り控えめに」と思って我慢するところがある。
- ・前はもっと意見を交換しあっていたが、年をとったら話し合いも少なくなった。

- ・耳が悪くて情報を取り入れにくい。ただ、寝ている高齢者も多い。

●見守り

- ・見守りが必要な人が集まって暮らせるところがあるとよい。
- ・隣近所の距離があると見守りも難しい。
- ・一人暮らしで認知症の人が増えている。
- ・一人暮らしの人の家は入りにくい。たまに来た家族が「見てあげてー」と言ってくれれば。

●農地の有効活用

- ・農地が荒れている。
- ・自己所有の山、畑、田があることは大きな財産だと思う。太陽光発電などの会社はそれらの山などを利用している。土地は財産です。

●集まり

- ・顔見知りで、こじんまりと地域で集まりたい。
- ・集まれば何かができる。
- ・持ち寄りで集まっている。
- ・集まってしゃべるところがあるとよい。みんなで話したい。
- ・以前はもっと頻繁に地域での集まり、奉仕活動があった。今は少なくなっている。
- ・漬物や麦餅など得意料理がある高齢者が沢山いる。
- ・集会所も使えると思うが、冬暖房のしたくがあるので、高齢者には厳しい。
- ・バス停での集まりがあるらしい。
- ・「遊びにおいで」、「んだら行くか」と集まっている。
- ・集まりはお互いの負担にならないようにだと思う。
- ・集まりをやっているが、自分ができなくなった時に誰がやってくれるかと思う。

●介護サービスの利用

- ・介護の援助が必要になっても、お金がなくて、公的サービスも使えない。

●買い物・通院・交通

- ・買い物、通院は家の前まで来てくれるサービスがあればよい。
- ・通院するのも大変だと思う。
- ・バス停まで出られない高齢者が増えている。
- ・買い物に出かけるのが大変である。
- ・移動販売で助かっている人も多い。
- ・乗せていただきたいと思うが、何か事故でもあればと思うと言い出せない。
- ・買い物ができなくて困っている高齢者の人がいる。

●入院

- ・入院できるといい。診療センターなどで。

九戸村地域福祉懇談会（第4回）

平成30年1月27日（土）18:30～20:30／九戸村山村開発センター

1班：地域の課題と解決策

●小中学生と高齢者との交流

- ・学校と地域との関係が薄く、児童と高齢者とのかかわりがなくなっている。

●高齢者対策

- ・身近な場所で歴史を学べるようにしてほしい。
- ・地域の歴史。郷土芸能の話題。
- ・必要なときに介護サービスを受けられるか心配である。
- ・元気な時から関係を築いていけばよいが、元気な時は困らない。
- ・一人暮らしの人ほど、集まりに出ない。どう誘ったらよいのか。
- ・婦人会とかボランティアなどに入っていない方の地域への参加が必要である。
- ・一人暮らしの方の家の除雪をどうしたらよいか。
- ・一人暮らしの高齢者（世帯）が増加している。
- ・一人暮らし認知症の人が増加している。
- ・高齢者世帯が増加している。
- ・以前一人暮らしの人を調査したことがあるが、その時心配した人が数年後大きな課題を抱えた人になっていた。
- ・その地域の人から見守りが必要である。
- ・郵便局員と協力し、情報をもらうことができないか。
- ・家族介護で10年位介護度5の父を介護し、村の支援が本当に助かりました。
- ・村には福祉の充実にもっともっと取り組んでほしいと思います。
- ・皆必ず年を取るのだとつくづく感じていて、助け合いを大切にしたいと思います。
- ・地域懇談会の継続が必要である。
- ・社会福祉事業者との連携が必要である。
- ・もっと小さな地域で取り組みを進めてもよい。
- ・現在、毎日のように近所の高齢者の方から電話がかかってきます。その方は話し相手がほしいと思って受けています。
- ・対象者の把握や要望を調査する。

●若者

- ・若くても一人でいるため、近所とのあいさつが不足している。
- ・地域に若い人がいない。
- ・子どもがいない。
- ・医療機関が身近にない。
- ・子育て支援、保育園の充実が必要である。

●災害

- ・日中の火事や災害対応が心配である。

2班：人づくりが大切、人材・人財確保で安心安全なくらしを！

●地域の高齢者と子どもの交流の場づくり

- ・高齢者と幼児や赤ちゃんが交流できる場所があるといいな。
- ・小さい子が思いっきり遊べる広場がほしい。冬や雨の日も室内で遊べるような。
- ・子育て支援は、村に「はまなすっこ広場」のみである。緊急時や困った時のあずかり所がない。
- ・二戸のチャイルドスクールは、普段利用していない人でも緊急時に利用できる。

●若者が暮らす・働く環境づくり

- ・仕事がないので地元にいなくなる（若者）。
- ・Uターンを促進する必要がある。何かアイデアはないか。
- ・地域おこし協力隊に取り組んではどうか（Iターン）。

●有償ボランティアのような仕組みづくり（誰でも利用できる）

- ・店が少なく、買い物に行けない高齢者がいます（自分で見て買いたい）。
- ・買物の付き添いなどボランティア組織づくりが必要である。
- ・高齢者の見守りやちょっとした支援。例として、ゴミ出し、買い物、雪かき、食事やおかず。
- ・空き家の雪かき（国道沿い）が必要である。
- ・誰でも利用できるシステムづくりが大事（ルール）である。
- ・通学路の除雪が必要（優先させる）である。
- ・支援の仕組みづくりが必要である。

●地域活動のさらなる促進を！

- ・長興寺上地区では、老人の人達が5、6人集まって色々やっている。
- ・趣味や興味の合う仲間づくりが必要である。

●地域の再構築を目指す。

- ・高齢者のたまり場がほしい（常設、いつでも集まっているようなところ）。
- ・自分には話をする人がいなくてという人がいる。
- ・活動を支援する人が（促進役、世話役）いるとよい。場所はある。運営費の補助があるとよい。

●介護保険を補う居住支援の必要性

- ・要介護高齢者で施設に入れない軽いレベルの方の施設が少ない。
- ・グループホームのような施設があるとよい（共同生活の場）。
- ・本人が一人暮らしよう高齢者住宅を希望したい場合がある。
- ・共同生活の好き嫌いがある。入居者の相性がある。

・冬期だけ共同生活の場で暮らせるとよい。管理人付の施設。青森に例がある。

●潜在的なひきこもりの人の支援が必要！

・引きこもりの人（若者）が少なくない。小中生もいる。

